

作成日: 2017年10月10日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:

製品名称: ヒドロキノン

製品番号(SDS NO): 3767-1

供給者情報詳細

供給者: キシダ化学株式会社

住所: 大阪市中央区本町橋3-1

担当部署: 化学品安全管理部

電話番号: (06)6946-8061

FAX: (06)6946-1607

e-mail address: kagakuhinanzenkanri@kishida.co.jp

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

急性毒性(経口): 区分 4

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分 1

皮膚感作性: 区分 1

生殖細胞変異原性: 区分 1B

発がん性: 区分 2

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 1(中枢神経系)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 2(腎臓、肝臓)

環境有害性

水生環境有害性(急性): 区分 1

水生環境有害性(長期間): 区分 1

(注)記載なきGHS分類区分: 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

飲み込むと有害

重篤な眼の損傷

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

遺伝性疾患のおそれ

発がんのおそれの疑い

臓器の障害

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

水生生物に非常に強い毒性

長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

環境への放出を避けること。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。



保護手袋を着用すること。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 保護眼鏡/保護面を着用すること。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

漏出物を回収すること。
 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
 皮膚に付着した場合:多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 口をすすぐこと。
 飲み込んだ場合:気分が悪いときは医師に連絡すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

混合物/単一化学物質の選択:
 化学物質

成分名	含有量(%)	CAS No.	化審法番号	化審法
ヒドロキノン	99(min)	123-31-9	3-543	優先評価化学物質

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分
 ヒドロキノン
 安衛法「通知すべき有害物」該当成分
 ヒドロキノン
 化管法「指定化学物質」該当成分
 ヒドロキノン

4. 応急措置**応急措置の記述****一般的な措置**

気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。
 気分が悪いときは医師に連絡すること。



5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

周辺設備に適した消火剤を使用する。

特有の危険有害性

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火を行う者の保護

防火服/防災服/耐火服を着用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

掃き集めて、容器に回収する。

二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

(火災・爆発の防止)

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。

局所排気、全体換気

排気/換気設備を設ける。

注意事項

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

安全取扱注意事項

保護手袋、保護衣又は保護面を着用すること。

取扱中は飲食、喫煙してはならない。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

容器を密閉しておくこと。

直射日光を避け、換気の良い冷暗所(または暗所)で保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

許容濃度

(ヒドロキノン)

ACGIH(2007) TWA: 1mg/m³ (眼刺激; 眼障害)



注釈(症状、摂取経路など)
(ヒドロキノン)
皮膚感作性

OSHA-PEL

ヒドロキノンTWA 2mg/m³

ばく露防止

設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。
洗眼設備を設ける。
手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状态

形状：結晶
色：白色～微灰白色
臭いデータなし

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

初留点/沸点：287°C
融点/凝固点：171～174°C
分解温度データなし
引火点：(ヒドロキノン)165°C
自然発火温度：515°C
爆発特性データなし
蒸気圧：0.12 Pa (20 °C)
蒸気密度データなし
相対蒸気密度(空気=1)：3.8
20°Cでの蒸気/空気混合気体の相対密度(空気=1)：1
比重/密度：1.3g/cm³
溶解度
水に対する溶解度：5.9 g/100 ml (15 °C)
n-オクタノール/水分配係数：log Pow0.59

10. 安定性及び反応性

化学的安定性

空気中で次第に着色する。

危険有害反応可能性

水酸化ナトリウムと激しく反応する。(ICSC 0166)

避けるべき条件

混触危険物質との接触。



火源との接触。
混触危険物質
水酸化ナトリウム

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

(ヒドロキノン)

rat LD50 =390 mg/kg (SIDS, Access on Apr. 2012)

局所効果

眼に対する重篤な損傷・刺激性

[日本公表根拠データ]

(ヒドロキノン)

ラビット 腐食性の傷害 (DFGMAK-Doc. 10, 1998)

感作性

皮膚感作性

[日本公表根拠データ]

(ヒドロキノン) cat.1; EHC 157, 1994

生殖細胞変異原性

[日本公表根拠データ]

(ヒドロキノン) cat.1B; EHC 157, 1994

変異原性が認められた化学物質 [厚労省局長通達]

(ヒドロキノン)

発がん性

[日本公表根拠データ]

(ヒドロキノン)

ACGIH (2008) A3 et al

(ヒドロキノン)

IARC-Gr.3 : ヒトに対する発がん性については分類できない

(ヒドロキノン)

ACGIH-A3(2007) : 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

(ヒドロキノン)

EU-発がん性カテゴリ2; ヒトに対する発がん性が疑われる物質

催奇形性データなし

生殖毒性データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(ヒドロキノン) 中枢神経系 (EHC 157, 1994; DFGMAK-Doc. 10, 1998)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[区分2]

[日本公表根拠データ]

(ヒドロキノン) 腎臓、肝臓 (NTP TR 366, 1989)

吸引性呼吸器有害性データなし



12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性

水生生物に非常に強い毒性

長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

水生毒性(急性)成分データ

[日本公表根拠データ]

(ヒドロキノン)

魚類(ファットヘッドミノー) LC50=0.044mg/L/96hr (NITE初期リスク評価書, 2008)

水生毒性(長期間)成分データ

[日本公表根拠データ]

(ヒドロキノン)

甲殻類(オオミジンコ) NOEC = 0.003 mg/L/21days (環境省リスク評価第10巻, 2010)

水溶解度

(ヒドロキノン)

5.9 g/100 ml (15 C) (ICSC, 2001)

残留性・分解性

(ヒドロキノン)

BODによる分解度: 70% (既存化学物質安全性点検データ)

生体蓄積性

(ヒドロキノン)

log Pow=0.59 (PHYSPROP Database, 2005)

土壤中の移動性データなし

オゾン層破壊物質データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

番号: 3077

品名(国連輸送名):

環境有害物質、固体、N.O.S.

国連分類(輸送における危険有害性クラス): 9

容器等級: III

指針番号: 171

特別規定番号: 274; 331; 335; 375; A97; A158; A179; A197

環境有害性

海洋汚染物質_急性有害性

ヒドロキノン

海洋汚染物質_長期間有害性

ヒドロキノン

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物



名称表示危険/有害物
ヒドロキノン(別表第9の461)
名称通知危険/有害物
ヒドロキノン(別表第9の461)
有害物ばく露作業報告対象物質(平成28年対象・29年報告)
ヒドロキノン
化学物質管理促進(PRTR)法
第1種指定化学物質
ヒドロキノン(1-336)
消防法に該当しない。
化審法
優先評価化学物質
ヒドロキノン
大気汚染防止法
有害大気汚染物質
ヒドロキノン
船舶安全法
有害性物質 分類9
航空法
その他の有害物件 分類9
水質汚濁防止法
指定物質
ヒドロキノン

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 19th edit., 2015 UN
Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)
2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)
2017 TLVs and BEIs. (ACGIH)
<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>
JIS Z 7253 (2012年)
JIS Z 7252 (2014年)
2016 許容濃度等の勧告(日本産業衛生学会)
Supplier's data/information

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。
ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。
ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ(NITE 平成27年度)です。